

村田女子商業高等学校



村田女子商業高等学校は、昭和六年に設立された村田女子計理学校を前身として昭和二十六年に第一回生が入学した。

実務能力と教養を身につけた、健康で明るい女性の育成を目指し、生徒・教職員・父母が一体となったきめ細かな指導、自由な中にも規律正しい学風、長い伝統と実績を誇る実務教育で定評があり、女子職業教育機関として特異な地位を築いている。

女性の社会進出には目ざましいものがあり、それにもなつて、高度な専門能力および豊かな人間性が求められるようになっていく。村田女子商業高等学校では、伝統の簿記教育に加えて、関連分野の知識を幅広く身につけるとともに、人間的な教養を培い、職場あるいは家庭において、有為な女性の育成を目指している。

このような、村田女子商業高等学校の校風を、顕著に表しているのが、本校の校章である。単なる標識でなく、全体の形は女性の品位を象徴した鏡をなし、中央は商業の神マーキュリーの杖と古代の通貨分銅をかたどったものとなっている。また、校章の紫の色は、女性としての気高い姿を表している。

校訓

- 一 誠実・勤勉・清潔であれ。
- 一 健康にして勤労に専らむ人であれ。
- 一 礼儀を厚くし責任を重んじ
役立つ社会人であれ。

教育目標

- 一 生徒の個性をのび、健康で明朗な女性を育てる。
- 一 実務に関する知識と技能を併得させ
社会に役立つ資質をつちかう。
- 一 女性としての教養を高め将来の家庭生活に
必須な特性を養う。

教育内容

商業科（三年制・昼間部）

本校のカリキュラムは、高等学校としてはもちろん完成されたものであるが、村田簿記学校と連動した五年間一貫教育も配慮し、二年次からはコース制を採っている。

一年次は普通科目を合計二二単位履修、幅広い基礎知識を養うとともに商業経済、簿記会計、計算実務の基礎を一〇単位履修する。二年次からは次の三コースに分かれる。

会計実務コース 経理事務に重点を置く。カリキュラムは、村田簿記学校の税理士科とも連動している。普通科目は三五単位と三コ

ース中もつとも少ないが商業科目に三〇単位が当てられている

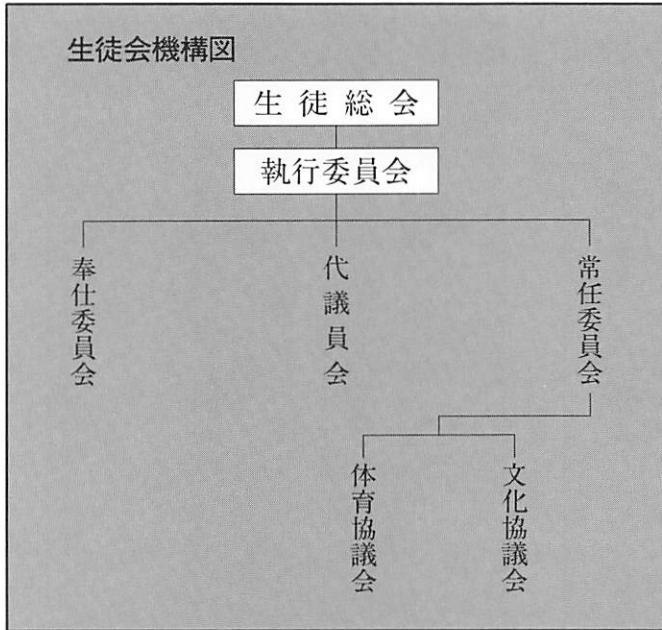
情報経理コース 一般的な商業実務、情報処理などを修得する。カリキュラムは村田簿記学校の経理情報処理科とも連動し、普通科

目が三九単位、商業科目二六単位を履修する。情報処理に重点を置く

国際実務コース 進学等に備えて、普通科目に重点を置き、五四単位履修する。商業科目は総合実践、情報処理など、一一単位を履修する。村田簿記学校の国際ビジネス科との一貫教育を目指している

生徒会活動

村田女子商業高等学校では、ただ単に知識・技能を身につけるだけでなく、集団活動を通じて自主的な態度や協調性を養うことを目標に、生徒会活動も活発に行われている。生徒会には生徒総会、執行委員会のもとに奉仕委員会、代議員会、常任委員会が置かれ、規約にしたがって各人の個性を伸ばすとともに互いの友情を深めつつ、



健全な活動を行っている。
また、学園生活の華である部活動は体育関係が一一、文化関係では一九におよぶ多数の部が設けられ、それぞれ目ざましい活躍をしている。

生徒会会則（抜粋）

第一章 総 則

第一条 本会は村田女子商業高等学校生徒会とする。

第二条 本会は学校より指示された自治の本旨をわきまえ、民主的な運営により学校生活を充実し、将来社会の一員として責任ある生活行動のできるような訓練を行い、生徒相互の向上発展を図ることを目的とする。

第二章 組 織

第三条 本会会員は生徒全員とする。

第四条 校長を名誉会長とし教職員を顧問とする。

第五条 本会に次の機関をおく。

- 一 生徒総会
- 二 執行委員会
- 三 代議員会
- 四 常任委員会
- 五 奉仕委員会

第六条 本会に次の役員をおく。

- | | | | |
|-----|----|-----|----|
| 会 長 | 一名 | 副会長 | 二名 |
| 幹 事 | 二名 | 会 計 | 三名 |
| 監 査 | 二名 | | |

クラブ活動

体育協議会

バレーボール部

関東大会に昭和三十九年から五十五年ま



で、一〇回の出場を数えている。しかし、遂に今年(平成元年)もその夢は消え、九年間も遠のいてしまっている。私学大会優勝一回、都大会三位二回の実績もあるが、現在は忘れられた存在となっていて、はがゆいかぎりである。現加盟校三四〇校中ベスト16、シードの権利を保有しているが、ここより上位に進出すべく、新チーム一三名で練習に励んでいる。「好きこそものの上手なれ」というが、これだけでは上達するものでもない。目的性を持った心の底より湧き出る「Want」を、各自に持たせてゆきたい。本年度のルール改正にともない、大技しか使えないということは、低身長の方がチームにとりなかなか苦しい状態である。これを克服すべく新たな戦略を考え、戦術面で最大に発揮できるように、努力を重ねてゆくことを肝に銘じている。

バスケットボール部

現在加盟校三四〇校中、女子部では一校一六校、二部校一六校、三部校二四校、残りが四部校という四部制で行われている。わがクラブはその四部校の決勝まで顔は出

すものの、三部校に残存できないという現状である。部員は初心者も含め一五名で、単に技術向上という面だけでなく、「自分にきびしく」という精神面にも力を入れている。各人の個性をいかにチームに生かし、チーム全体の発展につなげるかという課題を胸に努力している。

必ずしも恵まれていない部員条件ではあるが、上位校に残存するという目標を常に頭におき、熱く激しく毎日の練習に励んでいる。

ソフトボール部

わがクラブは、昭和三十八年に同好会として創設された。翌三十九年、クラブに昇格、当時赴任してきた大淵教諭が初代顧問として就任、指導に当たった。

特筆すべき実績としては、昭和四十二年、東京都代表として、全国高等学校総合体育大会におけるソフトボール競技に出場したことが挙げられる。また、翌四十三年、東京都私学代表として、全国私立高等学校女子選抜大会に出場した。この時期がこのクラブの最盛期であったといえる。

現在、村岡教諭の指導の下に活動しているが、クラブの置かれた難しい立場から脱却しようと努力している。部員一同は一層奮励し、捲土重来、再度の全国大会出場を目標に日々練習を重ねている。

ダンス部

『ダンス』というと、多くはどんなものを想像するだろうか。フォークダンスか社交ダンス、それともバレエであろうか。このダンス部が目指しているダンスは創作ダンス、すなわち『踊りをつくる』ことを基本姿勢にしている。

毎年虎ノ門ホールで行われる東京都高等学校舞踊研究発表大会に、七年連続で出場している。与えられた課題から創作テーマをイメージし、それをどのように表現して作品に仕上げていくか、この過程がいつも難しく、膨大な時間がかかる。毎年あまりいい講評は得られないが、年一回のこの大会への出場は、ダンス部の武者修行の場であり、校内の発表では体験できない、何ともいえない緊張感と新たな創作意欲をかき立ててくれる。

今年度は、これまでになく多くの部員が揃った。人数分のイメージをふくらませて迫力満点の舞台発表ができるようにと膨大な時間の積み重ねがスタートしたところである。

体操部

同好会的色合いの濃かった体操部が突然に様変わりを始めたのは、四年前に国立競技場で行われた私学祭のマスゲームに参加してからである。校内での練習はもとより、支部ごとの練習や参加校全体の練習を通して、たくさんのいい刺激を受けて、あつという間に大きく成長した。

たくさんさんの人の前で演じて見せることで自信をつけた体操部は、その後、体育祭で模範演技を発表したり、文化祭で舞台発表をしたりと、毎年確実に発表の場をふやしてきた。

ところがここに来て、この勢いにブレーキがかかり始めている。発表することを中心にした活動に迷いが生じているのである。この迷いを何としても打開し、一段上の次のステージを目指してエンジンを全開して

くれる日が待ち望まれる今日この頃である。

陸上部

現在の陸上部は小人数だが、どの部員もやる気に満ちている。練習は小石川と市川の校舎の両方で行われるが、小石川では主に柔軟を中心にトレーニングし、市川のグラウンドでは、ランニングと個人種目の練習を中心に励んでいる。また、夏季大会に向けて、市川では夏期合宿を毎年行い、リレー等で必要なチームワークを強化していく。そして秋の新人戦で全力を出し尽くしている。



過去の支部大会では、短距離、リレー、砲丸投げ、円盤投げ等で、しばしば入賞してきた。陸上は個人プレーが多く、どちらかというと地味なスポーツなので、忍耐強さ、自己に打ち勝つ精神力が必要と思われる。

バドミントン部

現在、部員数は二〇名で、小石川校舎の体育館に於いて、毎日活動を行っている。



週一日各学年が市川校舎で授業があるために、全員揃って活動できるのは、実質四日間である。

日々の活動は、高体連主催の大会と文京区主催の区民大会を目標にしている。これらの大会で、ダブルスを中心として、優秀な結果を得ようとし、部員達は、技術向上に励みながら練習を行っている。

合宿は、毎年夏休み、三泊四日の日程で、市川校舎において、部員同士の相互親睦と個々の技術のレベルアップを目標として実施している。

特に本年度からは、コーチが不在のため、顧問と部員の連帯を密に図り活動を活発化したいと思うとともに、切磋琢磨の精神が部員一人ひとりに身につくクラブになることを願っている。

テニス部

わが校の現在のテニス部は、三年生一名、二年生一八名、一年生七名の、計二六名で構成されている。テニスコートが市川校舎にあるという関係で、毎日ボールを追いかけることはできないが、週六日の練習で頑

張っている。一人ひとりを見ても個人差はあるが、練習の成果は十分に出ているようである。残念ながら試合の成績は、良いものではないが、一步一步前進していることは確かである。

技術の向上を目指すのは大切なことである。しかし、強い精神力を持っていなければ技術もあるレベルまでしか伸びていけないものである。村田のテニス部で、テニスの技術だけでなく、精神面でも向上するよう、目標を持って練習に励んでいきたいと思っている。

卓球部

現在一年生を中心として、部員数七名で、週三日の活動日を設け、活動に励んでいる。運動部ではあるが、地味に見られがちで、ここ数年は、部員数も減少し、部というよりも同好会的色彩傾向が強いというのが、現在の状況である。

本年度も、例年同様部員数が少なく、経験者も一、二名という状況ではあるが、やる気のある一年生が入部したため、これからの卓球部を、部として立派に再建してく

れることを顧問としては願っている。

活動内容は、高体連の大会に出場しても恥じないような力と技術を身につけることを目標とし、個々のレベルアップを図りながら活動に励んで練習をしている。今後の活躍を見守っていききたいと思う。

剣道部

剣道部は現在一三名の部員で活動をしている。部員の大半は初心者ということで、全員有段者を目標に日々鍛錬している。

「剣道は礼に始まり礼に終わる」というように、部員にとっては「礼節」を三年間かけて身に付けるのも目標の一つである。

大会では、昨年秋期大会では都ベスト32に入り、支部大会では三位の成績を二回獲得し、着実に実力をつけている。今後より一層の上位を目指して、基礎基本を忘れずに頑張っていきたい。

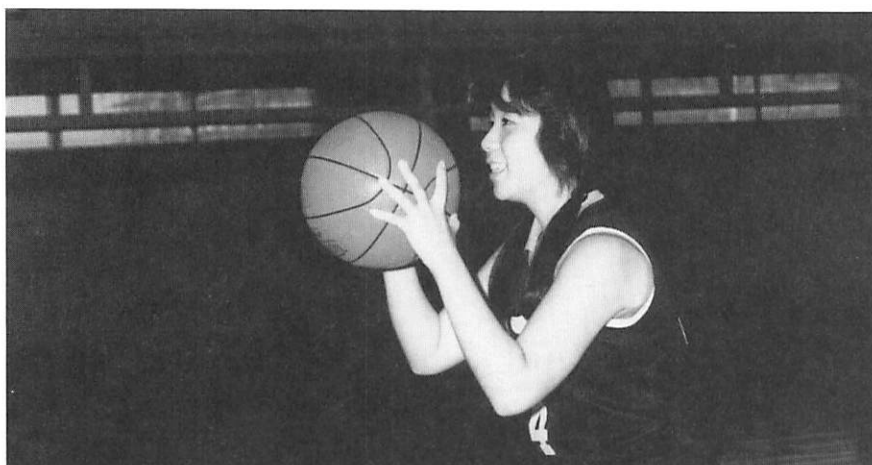
ワンダーフォーゲル部

「そこに山があるから」というマロリーの有名な言葉があるが、これは彼がエベレ

スト歓送会の席で、ある貴婦人に「どうして山なんぞにお登りになるんぞあます」と聞かれた際に返答に窮し、苦しまぎれに出たものであるらしい。実はいいかげんな言葉だったのである。もうこの台詞は使えない。

現在の二〇名ほどもいる部員の中で、「そこに山があるから」などと本気で思っている者はもちろんいない。第一、全部員の中で初めからワンダーに入部していた者は一人もいないのである。全員がトラバーユ部員である。登山に対する確固たる動機がないのも無理はない。

こんな部員達により、毎年、夏は尾瀬で合宿を行い、本年は数回の日帰り登山も予定している。体力作りのためのトレーニングも週に一度行っている。「動機は曖昧だが山に行く」——ここにおいて私達はかのマロリーといっしょである。エベレストと会津の駒ヶ岳とは、標高の違いはあっても、山の価値に優劣はないはずである。私達は駒ヶ岳で、マロリーがエベレストに向かったときと同じ感動を味わうことができると思信じている。



文化協議会

簿記部

簿記部は、週三回の活動(月・水・土)を通じ、部員が自主的に検定試験(日本商工会議所主催、全国商業高等学校協会主催)合格を目指し頑張っている。

活動内容は、プリントによる答案練習を柱に何度も練習を積み重ねることにより、合格を目指している。また、夏には、市川校舎、あるいは北軽井沢寮での合宿を行い、部員相互の親睦もはかっている。さらに、



秋の文化祭においては、展示物を出すばかりでなく、MCAIによる簿記学習の実践も行っている。

全国商業高等学校協会主催の全国簿記コンクールにおいては、第一回から今年の第五回まですべて東京代表を勝ち取り、全国大会出場を果たすなど対外的にも活躍している。

珠算部

「スタートラインは、みんないっしょ」という校長の言葉にびったりするクラブである。入部してくる者のほとんどが初心者で、高校三年間を通じて、ひとつでも上の級に合格することを目指している。1+1の基本から練習を始めるが、卒業までには、ほとんどの者が、一級合格の成果を挙げる。これに対して、校長のことばとは裏腹なものこの部。なぜなら、入部したときから高校三年間では絶対に埋められないハンデイキヤップを背負っているからである。中学生まで競技というものをまったく知らず、高校に入ってから自分の限界に挑戦していかねばならない。

以前、競技の選手は高校三年間の指導と猛練習で作り上げられていた。また、それで、充分戦える時代でもあった。しかし、今では九段、十段の高段者を入学させて、その選手をどのように操作すれば勝利が得られるか、という時代になってしまった。つまり、高段者を入学させた学校だけが、優勝のチャンスをつかめるという時代——まるで高校野球のようになってしまっているのが現状である。

そんな時代に、昔ながらの指導と猛練習で選手を作り上げ、東京代表として、連続全国大会出場を維持し続けることは、かなり辛いものがある。それを続けているのが本校であり、それだけは他校に誇れるものである。

大会が近くなれば、「平常心で頑張っているらっしゃい」と校長からの励ましの言葉をいただく。その言葉にこたえることのできる日を夢みつつ、連日の練習に励んでいる。

英語部

英語部は人数も少なく、地味なクラブだが、ここ数年、文化祭の英語劇を中心とし、

活動も活発になってきた。

限られた週二回の活動では、なかなか思うようにいかないが、一学期には、英会話を中心に学び、夏の北軽合宿では英語劇の練習に全力を注いでいる。今までに上演してきたものには「白雪姫」「シンデレラ」「最後の一夜」「ベニスの商人」等がある。

また、秋の全商英語スピーチコンテストにも第三回目から毎年出場し、しばしば上位入賞を果たし、良い成果を挙げている。三学期には、英語部内でのレシテーションコンテストを開き、常に自己研鑽に励んでいる。

タイプライティング部

タイプライティング部は、本校でも伝統あるクラブの一つとして、毎年めざましい活躍をしている。現在の構成部員は、一年生六名、二年生八名、三年生九名の計二十三名である。

全東京タイプライティング競技大会においては、本年も団体優勝を果たし、個人の成績においても、一等から三等までを本校生徒が独占して獲得するという、完全優勝



を成しとげた。こうした輝かしい実績は、日頃の厳しい練習に耐え抜いた結果である。すなわち、毎日の放課後の練習に加えて日曜・祭日においてもタイプライターに打ち込んだ成果といえる。今年で英文タイプライティング連続十三年間連続優勝という未踏の記録を達成し、さらに関東大会、全国大会での入賞を目指して頑張っている。

ワープロ部

ワープロ部は、昭和六十二年四月に同好会として、部員数二四名により発足した。本年度から部に昇格し、現在、社会の情報

化の波に伴い、部員数を年々増やし、八三名の大部分で活動している。

わが校では、ワードプロセッサ（OASYS 100 J）二七台、パーソナルコンピュータ（富士通 FMR-50）五四台を設置しており、パーソナルコンピュータに関しては、ワープロソフト、FMOASYSを用いて、活動を行っている。活動内容としては、検定試験の合格を目指し、速度入力練習、文書作成。また、漢字や文書作成に必要な知識等の習得のため、機械のみの練習ではなく、練習時間の半分は時間をさいている。

本年度より、全商ワープロ競技大会へも参加し、個人部門において、二位という成績をおさめた。今後、一層競技大会への強化を行い、部の一つの伝統として常に優勝をねらっていききたい。

ワードプロセッサの需要は、ますます増える傾向にある。商業高校の性格上、ワープロ部は、なくてはならない存在となっていくことだろう。そのために、これから部の伝統を一つ一つ積み上げていき、「村田にワープロ部あり」といわれるよう、頑張っていきたい。

家庭科部

活動日は、月曜日の週一回と少ない活動日数だが、一人ひとりがその中で精一杯頑張っている。活動内容は、主にむらた祭に向けての個々の作品の製作だが、器用、不器用を問わず、自分なりの個性あふれる作品が出来上がる予定。

また、その作品製作を通して、技術の習得だけでなく、一つのモノが自分の手によって作られ出来上がっていくというその楽しさをも学びとることができるとは：と思う。部員数も今年は、百人弱という多人数ではあるが、一人ひとりとまって素晴らしい作品を作り上げていってほしいと思っている。

書道部

科学が発達し、ワープロでも書道文字が打てる時代になったが、機械化されたこうした文字は、感情のこもらないまったく個性のない文字でしかない。人の書く文字は、一人ひとり顔が違いうように、皆違った個性

を持っている。その人なりのぬくもりのある文字を書こうと、書道部は、週三回練習を行っている。

月々課題の決められた漢字、仮名の研究のほか、ペン字や篆刻、また、拓本も採りに行くなど、広い範囲に活動している。毎年夏の北軽井沢の合宿では、千字文を一日で書きあげるのが恒例になっている。睡眠におそわれフラフラしている者や、眠気をさますために何度も顔を洗っていく者など、必死に頑張っている姿がある。先輩、後輩の助け合いが生まれるのもこの時である。全部書きあげた時の感動は、生涯忘れられないものとなるだろう。

校長も毎年、この合宿では、生徒達の前で大作を書きあげる。その迫力は、部員を啞然とさせるほどの強い感動を与える。また、合宿に参加の職員もそれぞれに力作を書き、文化祭に校長とともに出品している。

多くの方のこれらの温かい励ましにより、大東文化大学主催の全国展の団体の部で、文部大臣賞や、理事長賞、所長賞等受賞することができた。今後も先輩、後輩の温かなつながりを大切に、よりぬくもりのある書が書けるよう張り切っている。

美術部

美術部は、例年一〇名から一五名程度の部員で構成されている小さなクラブである。文化系クラブの特徴を生かす意味からも、各自の個性と自由を尊重しながら、活動が進められている。小クラブの強みもてつだって、雰囲気は和気あいあいとしている。

この数年の具体的な活動としては、各自一枚は仕上げる油彩画(自由題材)と、女性のこまやかな感性を発揮できる粘土人形、木板やビンに自由な絵がらをほどこすデコパージュなどに取り組んでいる。また、夏休みを利用して合宿も行われる。

今のところ、作品発表は文化祭に限られているが、近い将来には、地域の展示会などへの出品を考えている。



演劇部

演劇部は、文化祭と予餞会の年二回の舞台発表に向けて、常日頃から励んでいる。部員たちが一番楽しみにしていることは、北軽井沢の合宿である。この合宿で、一年生から三年生までの交流を深め、文化祭に向けてのつらい練習に耐え、高校生活の最高の思い出ができる。つらくて涙が出そうな苦しさ、また腹で茶をわかすようなおか



しさとか同居している日々を過ごすことができる。

舞台発表に成功すると、何ともいえぬ気持ちがあふれ出す。そして辛かった練習もすべて自分たちのためになったのだとも思える。このような雰囲気と部員たちの励みはずっと続けていきたいいなと思う。これから演劇部に入部しようとする者には、是非この伝統を受け継いで素晴らしい部活と、舞台を作り上げていってほしいと願っている。

華道部

本校は、小原流、青山貴美枝先生の御指導の下に週一回活動している。今年度の部員は、三年生一七名、二年生一四名、一年生六名、計三七名。ここ数年四〇名前後の部員数だが、女子校にしては少し寂しい気がする。

むらた祭が唯一の発表の場となり、各自希望する花型・花材を用いて、前日は遅くまでかかって作品を仕上げる。青山先生が一人ひとりの作品の写真を撮って下さるので、良い記念になり、生徒も励みにしてい

る。

行事等の関係で月平均二回しか活動できないのが実情だが、活動回数を少しでも多くし、腕を上げてほしいと願っている。

茶道部

茶道は「堅苦しい」「難かしい」と敬遠されがちだが、利休は――

茶の湯とは

ただ湯をわかし 茶をたてて

飲むばかりなる事と知るべし

といっている。

この利休の言葉を基礎に「日本の伝統」を日常生活の中で生かせるように、基本的作法を身につける事から出発している。

毎週月・水曜日二時間、一年生は基本点前を二、三年生は棚物の扱いが出来るように練習に励んでいる。理屈ではなく、他人の所作をじっと見て、無言で学び取る態度が肝要。対外的なものはないが、唯一の発表の場としての「むらた祭」に向けて日々精進している。

吹奏楽部

吹奏楽の歴史は古く、牧童の吹く角笛が、ホルンの原型となったなど、「吹奏楽」という言葉から、多くの古代ロマンを感じるこ
とができる。このような、楽器成立ロマン
と同時に、「吹奏楽」は文字通り、「楽器を
吹き奏で、音を楽しむ」という正に「音学」
ではなく「音楽」という芸術ロマンを感じ



ることもできる。このように、かつて、軍
楽隊が、士気高揚と、ただ音量のみを追求
した時代は今も去り、音色をいかにするか
という音楽本来の姿に吹奏楽も戻りつつある。

本校吹奏楽部は、以上のようなロマンを、
活動の礎として各種行事、コンクールに取
り組んでいる。独奏は別として合奏では、
奏者のスタンドプレーはソロを除き許され
ない。つまり、奏者全員が自分を理解しな
がら周りを把握し、異質な音を一つの音へ
と溶け込ませていくという、われわれ人間
社会の協調の精神を吹奏楽を通し相互に学
んでいきたいと思っている。クラブの宛字
に「倶楽部」とは、よくいったもので、卒
業後約八割が社会へ巣立つ商業高校として、
最後の学校生活の中で、大いに思い出を創
ってほしいものだ。クラブで得た事柄が人
生の縁(よすが)となることを念願している。

活動の歩み

創部 昭和四十年四月一日

初演 昭和四十年九月十五日、村田謙造

叙勲祝賀会(於・椿山荘)

現況(編成) 三〇名、

〈校内活動〉入学式・体育祭・文化

祭・予餞会・卒業式

〈校外活動〉東京都吹奏楽コンクー

ル銅賞(昭和六十三年
度)平成元年度)

コーラス部

部員の少ないクラブだが、十一月のむら
た祭の舞台を目標に練習を重ねている。や
りなおしのできない「音」という生き物を、
少しでも美しく生み出すことができるよう
心がけている。技術的にはまだ未熟だが、
大きな舞台に自分と「音」が立つ緊張感と、
成し終えた喜びは何物にもかえがたいもの
である。

小人数ゆえに上級生が下級生の指導に積
極的にあたり、部員一人ひとりの希望も反
映されやすい和気あいあいとしたクラブで
ある。毎年むらた祭には独唱、合唱、ミュ
ージカルなど生徒自身の希望、企画による
出し物が、部員の自覚と積極的な活動によ
り創られていく。

いつの日か、総合芸術として鑑賞に堪え
うるような舞台を創りあげ、拍手をあげる
ことを夢みて、今日も腹筋運動をはじめに
頑張っている。

ギター部

一般に、ギターを大別すると「クラシック」「フォーク」「エレキ」と発生順に分けることができる。ギターは、簡易な楽器として古くから人々に愛されてきたが、ここであるギターは、「クラシック」を指している。音楽面よりも「歌詞(詩)」に力点を置く「フォーク」や「エレキ」よりも、「音」に人生の喜びや悲哀を込めた「クラシック」は、練習主眼を「音づくり」に置くようにしている。弦一本一本の微妙な響きを、よく訓練された耳で聴き取り、作曲者の曲への想いを表現できるようにしたいものである。

活動の歩み

創部 昭和四十三年四月一日
活動 文化祭での発表、展示(ギターの歴史)

フォークソング部

フォークソング部は、秋に行われる「むらた祭」での発表を目標に週三回活動して

いる。活動内容は、ギターとキーボード等の楽器の練習を中心に、各自楽譜を持ち寄って歌の練習もしている。

私達は運動部のような外部での活動は行っていないが、「むらた祭」に向けて発声やギターの基礎から始め、夏の総仕上げの合宿まで精力的に練習をしている。フォークソングは楽しいものと思われがちだが、楽しくなるまでの練習はどのクラブも同じで、やはり厳しいものがある。部員たちは、ギターのガットで手をけがをしながらも、「むらた祭」のスターを目指して頑張っている。

アニメーション部

「サムライトルーパー」「ドラゴンボール」「隣りのトトロ」……。最近のアニメはタイトルを見ただけでは内容がまるで解らない。大人がドラゴンボールなどと聞くと、龍の野球マンガを想像してしまうだろう。きつとこれがジエネレーションギャップというものなのだ。

部員達は、これらのアニメのキャラクターのセル画の製作を中心に活動している。手間とコストの関係から、このセル画をも

とに動画のアニメーションを製作するまでにはいたっていない。透明なシートにキャラクターの輪郭を描き、そこに百色以上もある中から選んだ色を塗っていく。その作業は細かく正確さが要求され、根気のいる職人の仕事である。しかし、誰もがそういうときの部員たちの横顔を覗くと、そこには何とも楽しげな喜びの表情を見いだすにちがいない。

部員たちの前にある一枚のセル画は単なる模写ではない。皆は一枚のセル画の向こうで、主人公とともに生きているのである。一本ラインを引くごとに、一つ色をつけ加えるごとに、部員たちは夢の世界へ溶け込んでいくような気がするのである。



園芸部

私達は、幼少のときにはすでに緑少ない場所ので育ち、自宅においても草花を購入し、見る楽しさはあっても育てる機会には恵まれなかった。幸いなことに教頭や事務員の先生方のアドバイスのおかげで、まったく未経験の部員達も楽しく育てる喜び辛さを学ぶことができた。

現在、春にまいたマリーゴールドや秋桜の花達が微笑んでくれている。花を咲かせるまでの土作りや、水まき、日光あて等、普段の地味な作業の結果であることを実感



する。また、小さな種が日々成長していく過程を観察して学ぶことがたくさんあり、感激する。

園芸部で育てた花を各クラスに置いてもらい、花のあふれる女商を目指して、これからも活動していきたい。

社会福祉研究会

社会福祉と聞くと、大多数の人達が堅い、生真面目なイメージをもつようだが、ここでは比較的なんびりとマイペースで活動している同好会としてスタートしてから五年目になるが、この間、手話や点字を習うかわら、外部の活動に加わってきた。都内



の高校生たちと老人ホームを訪問して語らいの時を過ごしたり、全国の若人が集う、夏の「活動文化祭」に参加した時の感動は忘れられない。また、秋に催される東京ボランティア祭りでは、ボランティアの多様さを知ったことも収穫であった。

今年は日本点字図書館を見学し、点字を基本から練習しているが、将来は点字で文通できるようにしたいと思っている。

速記部

速記部は、創部以来六年というこれからのクラブであり、現在部員数一〇名で活動している。

速記は、まず基本文字(五十音)を覚えてから、促音、長音、よう音と覚え、カード練習とを並行してスラスラ書けるように練習していく。次に応用として、省略文字を練習するが、これができるようになると、普通の話を書けるようになる。

OA化の進んできているこの頃だが、速記の必要性は決してなくなることはない。部員たちは、早く書き、文字の反訳も誤りなくできるように、活動を続けている。

教科学習に課外活動にフル稼動する
施設・設備



施設・設備



ONE-11

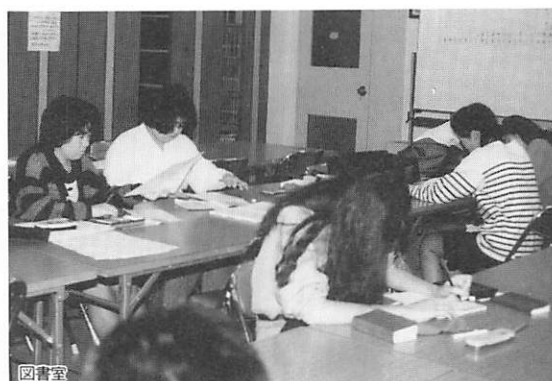


タイプ・ワープロ・コンピュータ室

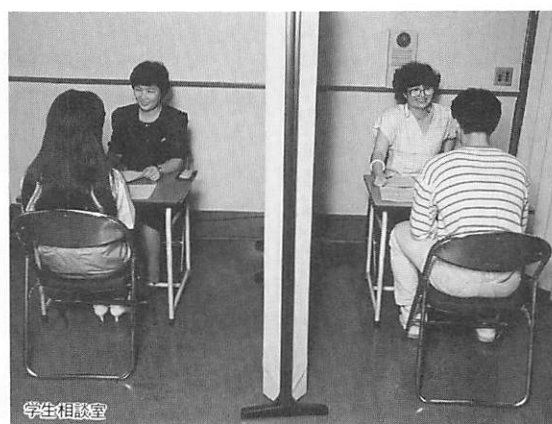
村田簿記学校(専門課程・高等課程)

千代田区神田神保町2-14

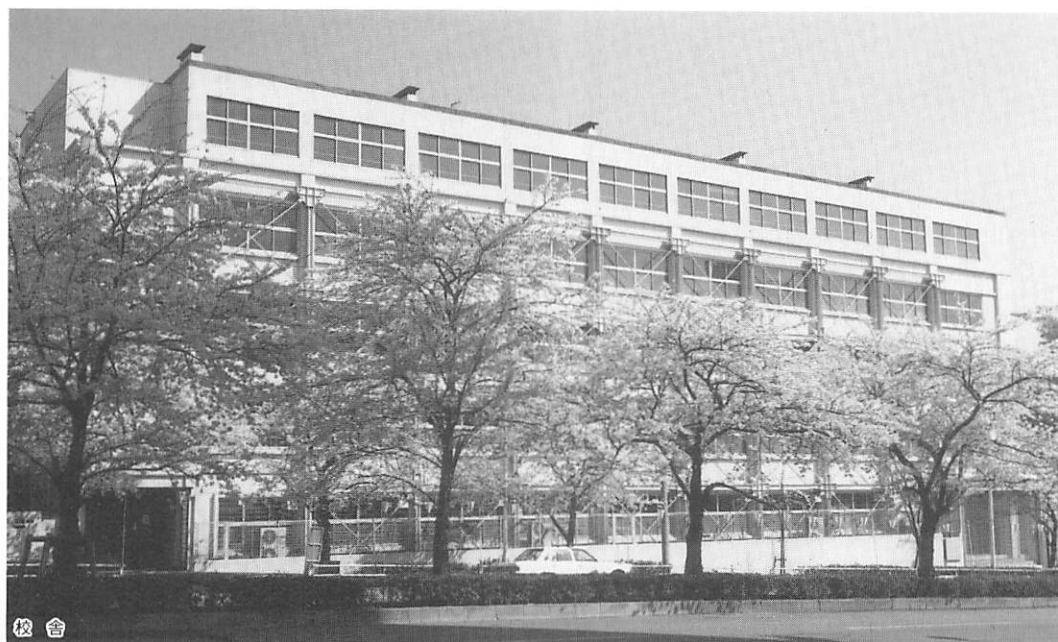
1号館	食堂
	図書室
	講義室
	タイプ・ワープロ・コンピュータ室
	講堂
	保健室
2号館	講義室
3号館	講義室・自習室
	学生ホール
ONE-11	就職相談室
	学生相談室
北沢館	英会話室
	講義室
OA機器	パーソナルコンピュータ 63台
	オフィスコンピュータ 8台
	日本語ワードプロセッサ 65台
	英文タイプ 65台



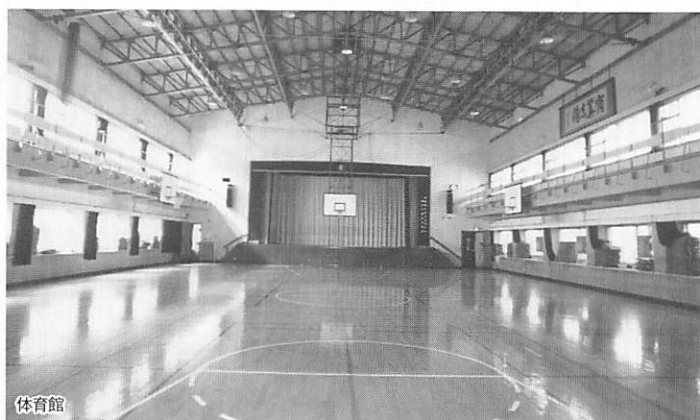
図書室



学生相談室



校舎



体育館

村田女子商業高等学校
文京区小石川 5 丁目 40-18

校長室	保健室
普通教室	体育館
音楽室	会議室
理科室	作法室
コンピュータ室	職員室
家庭科室	事務室
リラックス・ルーム	用務員室
ワープロ室	応接室
図書室	
印刷室	
OA機器	
パーソナルコンピュータ55台	
ワープロ27台	



コンピュータ室



家庭科室

施設・設備

市川校舎

千葉県市川市二俣612

校長室

普通教室

視聴覚教室
(含準備室)

調理室

大体育室

小体育室

体育教官室

実践教室

保健室

職員室

会議室

和室

応接室

更衣室

事務室

部室

管理人室

器具庫

倉庫

機械室

学習モール

談話コーナー

L.L.教室

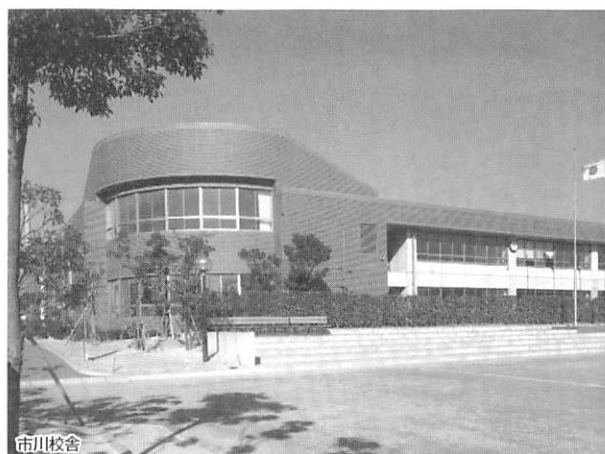
運動場

中庭

野外ステージ

全天候型

テニスコート



市川校舎



体育館



実践教室

北軽井沢寮

群馬県吾妻郡長野町応桑

生徒居室

職員室

調理室

ホール

倉庫

運動場

同窓会館

全天候型

テニスコート



北軽井沢寮